

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 中井規隆
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1~P4 病棟業務実施のための実技トレーニング講座 「病棟業務に必要な能力開発実践講習会」開催内容を徹底解剖！！

P5~P6 日臨技e-ラーニング 第2回 『バリューレゾリューション™』 についてOPEN！

P7~P9 ママさん技師の奮闘記 第3回 『大丈夫だった？桂川さんがいなくて大変だったよ。』

P10 平成29年度認定センター 認定心電検査技師育成研究会のご案内(第1報)

病棟業務実施のための実技トレーニング講座

「病棟業務に必要な能力開発実践講習会」開催内容を徹底解剖！！

日臨技で現在、新たに展開されている実技研修の詳細を解説いたします。

事務局政策調査課 板橋匠美

臨床検査技師が病棟などの現場に自信を持って対応できる人材を育成するため、実技訓練を含めた研修会の開催を企画しました。平成29年3月18日(土)、19日(日)はシリーズ全4回の第1回目として“多職種連携のために臨床検査技師が知るべきこと”をテーマに、病棟と言う現場で求められる能力に対応できる人材の育成を目的に、座学中心とした総論として開催しました。シリーズ2回目からは実践講習会場を「ニプロiMEP(アイメップ)」に移し、病棟という具体的な現場に対して、不安無く配属する(していく)ために必要となる、他職種の考え方や業務の進め方などを学ぶために企画しました。

◇ 会場案内

医療研修施設「ニプロiMEP(アイメップ)」は医療技術の進歩や医療機器の高度化に伴い、医療安全の充実と医療職の方々の課題解決能力およびスキルの向上のために医療職者向けの専門的研修施設として開設されました。

現在まで看護師などが積極的に活用していましたが、臨床検査技師においても、“臨床の現場”に対応した学習をするために、本施設を使用する運びとなりました。

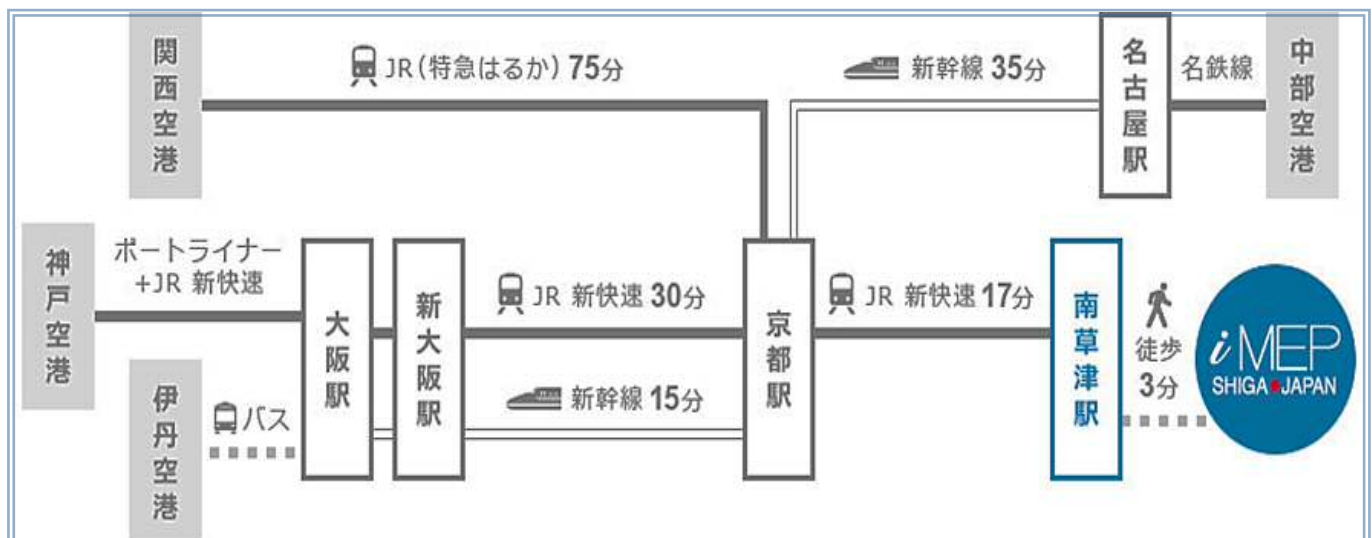
研修会ではナイトセミナーを用意している関係上、1日目講義の終了時間が少々遅くなります。そのために宿泊の対応ができる準備を事務局側で用意しましたので、ご希望の方は当会ホームページをご確認ください。



医療研修施設「ニプロiMEP(アイメップ)」

<http://www.jamt.or.jp/studysession/jamt/index.html>

東京駅から乗り換え1回(京都にて)で到着する便の良い会場です



◇ 具体的な研修内容

3月に開催された**第1回（多職種連携のために臨床検査技師が知るべきこと）**では、業務を行なう「病棟」という現場で求められる能力に対応できる人材の育成のため、病棟業務について具体的な業務内容を総合的に研修し、習得してもらうことを目的に開催しました。ここでは看護師、薬剤師など各学会より推薦いただいた講師陣により具体的な「病棟」という現場を総論として紹介しました。もちろん他団体へ臨床検査技師の取り組みをアピールすることと同時に、多職種連携に向けたビジョンの共有化も諮りました。

第2回目以降は、臨床検査のフェーズ（区分）で“**検査前工程**”“**検査工程**”“**検査後工程**”をテーマに開催

し、それぞれの講義は少人数による実技訓練が行えるようなカリキュラムを用意しました。会場は各医療職種が実技トレーニングのために利用している株式会社ニプロの医療研修施設となります。様々な医療研修ができるように、施設の設備や備品も用意されており、各医療職種が技術向上のために利用しております（下記会場図参照）。本研修の4回目では患者シミュレータを用い、講義から学ぶ知識を用いて病態から異常を探る訓練も用意されております。会員の方々は自身の勤務形態に合わせ、必要と感じられる講義の習得に進めていただければと思います。

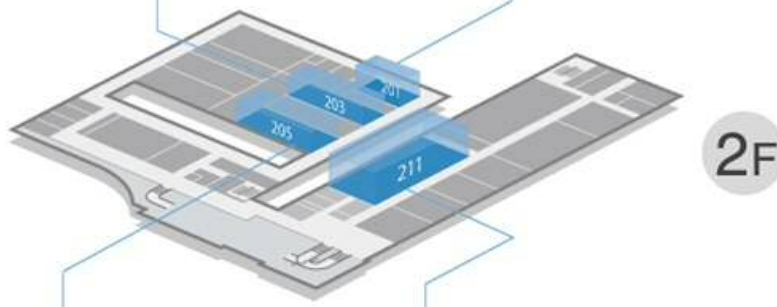
203研修室

模擬病室（4名室）です。
部屋を連結することで、最大8名室としても使用でき、幅広い研修に対応できます。



201研修室

個室型模擬病室です。
高度シミュレータの遠隔操作ができる講師副室を備えており、高度課題解決型研修が可能となっています。



205研修室

標準的な日本家屋内部を模した研修室です。
和室、台所、洗面所、トイレ、浴室を備えており、在宅での医療・介護の模擬実習に対応できるようになっています。



211研修室

透析装置の研修室です。
透析装置のメンテナンス・修理研修を行なえるようになっています。

研修テーマ:検査前工程

～臨床検査を行なうために必要な検査前工程
と集中型能力向上トレーニング～

開催日:平成29年7月29日(土)、30日(日)

研修会内容:検査前工程で必要となる法的知識・医療安全の考え方などをそれぞれ日臨技担当理事による解説。検査前工程で必要となる検査説明・相談の実際の進め方。認知症患者を含めた患者対応力の向上に向けた講義と実技。実際の各種検体採取シミュレータを用いた検体採取の講義と実技などを行います。

実技トレーニング①:患者対応コミュニケーション

検査を行なう場合、必ず患者に対して前もった検査の説明を必要とします(インフォームドコンセント)。この時、コミュニケーションの過程では、度々患者からの質問を受ける機会がでできます。この会話は単に情報を得るためだけでなく、患者が自発的に考えることを促し、考えを整理してもらうことにも有効です。状況に合わせて質問への対応スキルを習得し、また相手にうまく意思を伝えるための技術も学んでいただくために事例を活用したトレーニングを用意いたしました。

**実技トレーニング②:検体採取**

(鼻腔・咽頭、肛門、皮膚)

一部の検体採取行為を検査技師が法律上でできるようになったことで、免許一部付与のための講習会(検体採取に関する厚生労働省指定講習会)が全国的に開催され、臨床検査技師の価値を高めた状況といえる修了者が会員の半数(30,000名)を超えました。これら権利は現場で行使してこそ、臨床検査技師の価値を証明できません。業務拡大・展開の足掛かりとしていただくため、各採取のためのシミュレータを用い、技術特化型のトレーニングを用意いたしました。



各部位のシミュレータを使用

研修テーマ:「検査工程」

～ベッドサイドに必要な検査工程の
集中型能力向上トレーニング～

開催日:平成29年10月14日(土)、15日(日)

※近日中に募集開始

研修会内容:検査工程で必要となる法的知識・医療安全の考え方などをそれぞれ日臨技担当理事による解説。認知症神経心理検査(MMSEなど)の実践訓練。病棟に存在する各種モニター類等の講義と実技訓練。病棟で必要となる各種超音波検査の講義と実技。病棟で遭遇する患者急変時の実技訓練を行います。

実技トレーニング①:認知症スクリーニング検査

団塊の世代が75歳となる2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築が進められるなか、高齢者への対応力向上は増々重要視されています。その中で、多くの病院では認知症患者への対応として“認知症ケアチーム”などが組織され始めています。この講義では認知症対策として、ご施設の掲げる目標へ臨床検査技師が協力できる能力を身に付けるために、検査の意図、方法を実践し覚えていただくトレーニングを用意いたしました。

実技トレーニング②:臨床の現場でおこなう各種検査

病棟では心電図や簡易血糖測定といった馴染みの検査のほか、パルスオキシメータや各種モニターなど看護師や多職種が主におこなっている検査があります。ベッドサイドに配置された各種機器の用途や扱い方を知ることは医療安全上必要であり、状況に合わせた対応にもつながります。臨床で用途がわからない機器の不調にあわてないために、納得いくまで扱っていただくトレーニングを用意いたしました。また超音波機器を用いることで腹水、胸水、残尿など患者状況が把握できる方法についても理解した技術トレーニングができるよう準備を進めています。

**実技トレーニング③:患者急変時対応①**

患者対応中において患者の臨床状態に違和感を覚えたら臨床検査技師はどのように対応すべきなのかを、患者シミュレータを活用した実践型トレーニングを行います。講義で得た情報を駆使して体験型トレーニングを行ない、医療人としての患者対応力を養うための総合学習として位置付けています。

また、もしも目の前で患者が倒れたら医療人として救急対応するために必要となるBLSの実技トレーニングを様々な事例を用いながら講義と実技を進めていきます。

研修テーマ:「検査後工程」

～臨床検査の活用に必要な検査後工程の
集中能力向上トレーニング～

開催日:平成30年2月11日(日)、12日(月)

※近日中に募集開始

研修会内容:検査後工程で必要となる法的知識・医療安全の考え方などをそれぞれ日臨床担当理事による解説。高度なR-CPC結果を踏まえた検査説明・相談の模擬練習。患者移乗・介助の実技訓練。患者シミュレータを用いた病態から患者の状態を探る救急対応などを行います。

実技トレーニング①:

R-CPCと連携させた検査結果説明・相談

検査を終えた患者が回復期を経て退院し、家庭や社会に復帰する過程で受ける検査結果の説明・相談や病気への不安やストレスへの配慮など、患者ごとに異なる対応が必要となってきます。状況に合わせた対応スキルを習得し、また相手にうまく意思を伝えるための技術も学んでいただくための事例を活用したトレーニングを用意いたしました。

実技トレーニング②: 移乗介助

検査時を含めて施設内の患者移動には、移乗介助の技術は欠かせません。移乗介助の経験の浅い方からは車いすへの介助やベッド搬送など、上手にできないという声をききます。体格の良い人、体重の重い人、少し手助けするだけで良い人、片麻痺の人、全介助の人などなど、対象者の身体状況は様々。間違った介助は、転倒・骨折などの事故や、介助者の腰を痛めることにもつながります。対象者に合わせた移乗介助方法を学んでいただくため、ベッド、車いす、ストレッチャーなどを活用したトレーニングを用意いたしました。

実技トレーニング③: 患者急変時対応②

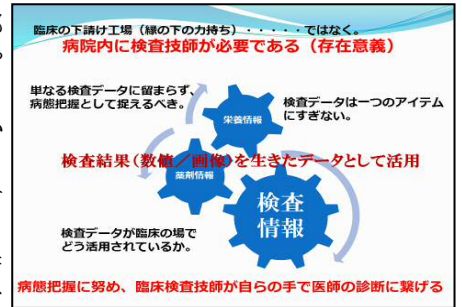
臨床の現場で患者の容態は急変することがあります。経験が浅い場合には、患者の容態が急変することに誰もが大きな不安を覚えます。急変は生命の危機に陥る重篤な場合も多く、適切な処置ができなければ命を救うことができない、あるいは重篤な障害が残ってしまう事態にもなりかねません。

病棟業務において、臨床検査技師が直面する頻度の比較的高い患者急変時の対応を、患者シミュレータで再現し医療人として適切な対処を経験するための体験型トレーニングを用意いたしました。日常的に起こる事態ではないため、実践する機会が少ない内容について講義で得た情報を駆使した総合学習として位置付けています。



◇ 横地式メソッド・同時開催

各ご施設の検査部門において「目標や成し遂げたいこと」はあるものの、なかなか達成できないことも多いはずですが、業務を通じてスタッフ・多職種・管理者へ、日常的にどのようにアピールするかは、病院内に検査技師が必要であると意識させるためにしっかりと考えておくべき内容です。もちろん検査部門の「目標や成し遂げたいこと」について結果として確約できるかが、その後のスタッフのモチベーションや検査部門の価値にも大きく繋がります。横地式メソッドはこれら目標へ到達するためのツールとして活用していただくため、この講習会内にて公開致します。



病院側が必要性をわかってくれない!

- ・業務拡大や新規検査項目を行ないたい。医療ニーズはわかっているのに・・・。
- ・古くなった検査機器を買い替えたい。もうとつくに更新時期を過ぎているのに・・・。
- ・人員の数を増やしたい。業務量と人数がまるで合っていないのに・・・。

これら要望(実現したいこと)を経営者や多職種に理解いただき確実に実現するためには、相応の戦略と理論武装が必須となります。検査部門の要望を叶えるため、横地式メソッドシリーズでは各ご施設で応用ができるよう段階を分けてご説明いたします。

横地式メソッド・シリーズ

～「絵に描いた餅」を実現させるための計画的戦略法～

キーワードは「絵モ千!?!」

- 1) 人員課題のための1解決法 (H29.2.18-19)
セクショナリズムに囚われた業務運用からワンフロア化による「業務最適化メソッド」を紹介した。
- 2) 多職種連携のための1考え方 (H29.7.29-30)
今の医療が求めている多職種連携を正しく理解し、日々の業務に取り入れてスタッフが実践している検査部門こそ、必要視される。医療ニーズに適応するための「業務包括化メソッド」を紹介
- 3) 人材育成のための1改革法 (H29.10.14-15)
組織に対して部門としての要望を通すためには、検査技師長の方だけでは限界がある。検査部門内で目標達成に向けた明確なビジョンを共有し、楽しみながら実現するための「問題共有化メソッド」を紹介
- 4) 中期目標実現のための1戦略法 (H30.2.11-12)
明確な目標を絵空事で終わらせないためには、相応の戦略と理論武装から「見える化」した情報を基に、議論の中での動議づけが必要となる。要望の必要性を理解してもらうための具体的な戦略「業務量分析化メソッド」を紹介

「病棟業務に必要な能力開発実践講習会」にて、
各検査部門がご施設で要望を叶えるために展開中!!
e-ラーニングの1講座として、H30.4より展開予定。

各ご施設の検査部門が目標実現に向けて動き出す(短期目標)ことにより、病院側により必要視される(中期目標)。これが相対的な臨床検査の価値をあげることとなる(長期目標)。

日臨技の職能団体としての目標を実現するため、1つの計画的戦略法をシリーズ化してご紹介いたします。